

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年7月10日(2008.7.10)

【公開番号】特開2003-335752(P2003-335752A)

【公開日】平成15年11月28日(2003.11.28)

【出願番号】特願2003-156884(P2003-156884)

【国際特許分類】

C 0 7 D 209/20 (2006.01)

A 6 1 K 31/405 (2006.01)

A 6 1 K 31/454 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/00 (2006.01)

A 6 1 P 5/06 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 P 41/00 (2006.01)

C 0 7 D 401/14 (2006.01)

C 0 7 K 5/062 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 D 209/20

A 6 1 K 31/405

A 6 1 K 31/454

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 3/00

A 6 1 P 5/06

A 6 1 P 17/02

A 6 1 P 41/00

C 0 7 D 401/14

C 0 7 K 5/062

A 6 1 K 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月23日(2008.5.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

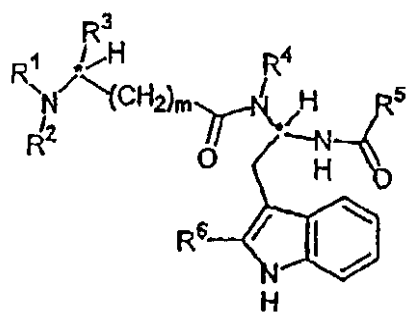
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

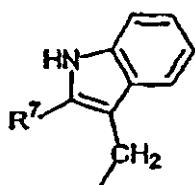
【請求項1】 (化1)の化合物であり、

【化1】



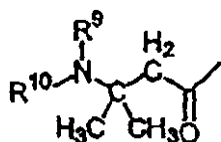
ここにおいて、*は炭素原子を意味し、キラルな炭素原子の場合にはR立体配置またはS立体配置をとり、 R^1 および R^3 のうちの一方が水素原子で、他方が(化2)の基であり、

【化2】

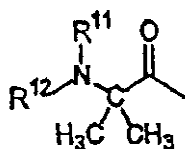


R^2 は水素原子、直鎖または分岐の $C_1 \sim C_6$ アルキル基、アリール基、ヘテロサイクリック基、シクロアルキル基、 $(CH_2)_n$ -アリール基、 $(CH_2)_n$ -ヘテロサイクリック基、 $(CH_2)_n$ -シクロアルキル基、メチルスルホニル基、フェニルスルホニル基、 $C(O)R^8$ 基、または(化3)から(化8)のうちの一つに属する基であり、

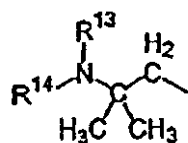
【化3】



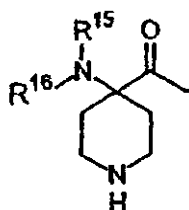
【化4】



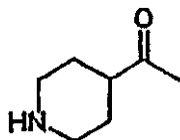
【化5】



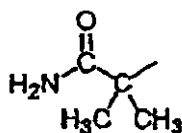
【化6】



【化 7】



【化 8】



R^4 は水素原子または直鎖または分岐の $C_1 \sim C_4$ - アルキル基であり、 R^5 は水素原子、直鎖または分岐の $C_1 \sim C_4$ アルキル基、 $(CH_2)_n$ - アリール基、 $(CH_2)_n$ - ヘテロサイクリック基、 $(CH_2)_n$ - シクロアルキル基またはアミノ基であり、 R^6 および R^7 はそれぞれ互いに独立した水素原子または直鎖または分岐の $C_1 \sim C_4$ - アルキル基であり、 R^8 は直鎖または分岐の $C_1 \sim C_6$ - アルキル基であり、 R^9 、 R^{10} 、 R^{11} 、 R^{12} 、 R^{13} 、 R^{14} 、 R^{15} および R^{16} はそれぞれ互いに独立した水素原子または直鎖または分岐の $C_1 \sim C_4$ - アルキル基であり、 m は 0、1 または 2 であり、 n は 1 または 2 である。

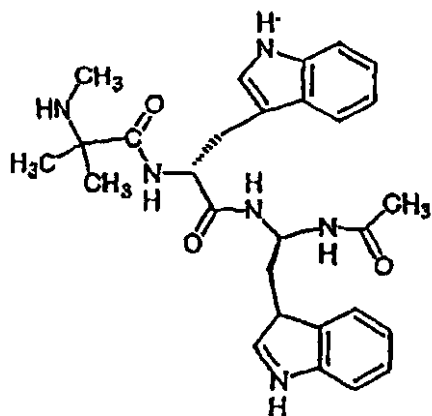
【請求項 2】 R^2 は水素であり、 R^3 は (化 2) の基であり、 m は 0 である、請求項 1 に記載された化合物。

【請求項 3】 直鎖または分岐の $C_1 \sim C_4$ アルキル基はメチルであり、直鎖または分岐の $C_1 \sim C_6$ アルキル基はメチル、エチルまたは *i* - ブチルであり、アリールはフェニルまたはナフチルであり、シクロアルキルはシクロヘキシルであり、そして、ヘテロサイクリック基は 4 - ピペリジニルまたは 3 - ピロリル基である、請求項 2 に記載された化合物。

【請求項 4】 R^5 は $NHCH_2CH_3$ である、請求項 1 に記載された化合物。

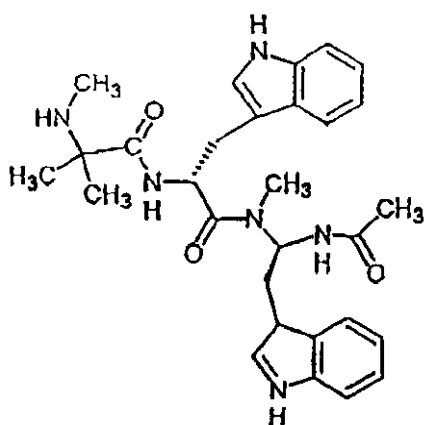
【請求項 5】 (化 9) の化学構造を有する化合物。

【化 9】

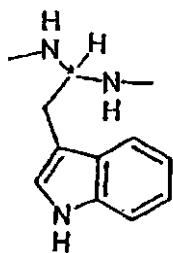


【請求項 6】 (化 10) の化学構造を有する化合物。

【化 10】

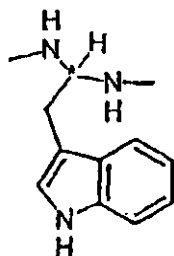


【請求項 7】 H - A i b - (D) - T r p - (D) - g T r p - C (O) N H C H
₂ C H ₃ の化合物であり、
ここにおいて、A i b は - アミノイソブチリル、D は右旋性鏡像異性体、T r p はトリ
プトファン、g T r p は



の基であり、* は炭素原子を意味し、キラルな炭素原子の場合には R 立体配置または S 立
体配置をとる炭素原子を意味する、化合物。

【請求項 8】 N - M e - A i b - (D) - T r p - (D) - g T r p - C (O) N
H C H ₂ C H ₃ の化合物であり、
ここにおいて、N - M e は N - メチル、A i b は - アミノイソブチリル、D は右旋性鏡
像異性体、T r p はトリプトファン、g T r p は



の基であり、*は炭素原子を意味し、キラルな炭素原子の場合にはR立体配置またはS立体配置をとる炭素原子を意味する、化合物。

【請求項 9】 請求項 1 の化合物を有する、薬物組成物。

【請求項 10】 薬物の受容キャリアーと組み合わせた、請求項 9 記載の組成物。

【請求項 11】 追加の成長ホルモン分泌促進薬と組み合わせた、請求項 9 記載の組成物。

【請求項 12】 請求項 1 に記載された化合物を哺乳動物に治療に有効な量で投与することを含む、哺乳動物における成長ホルモンの血漿中濃度を上昇させる方法。

【請求項 13】 請求項 1 に記載された化合物を哺乳動物に治療に有効な量で投与することを含む、成長ホルモンの分泌欠乏症を治療するための方法。

【請求項 14】 請求項 1 に記載された化合物を患者に治療に有効な量で投与することを含む、小児における成長遅延を治療するための方法。

【請求項 15】 特に老齢の対象者において、請求項 1 に記載された化合物を患者に治療に有効な量で投与することを含む、成長ホルモン分泌欠乏症にともなう代謝障害を治療するための方法。

【請求項 16】 請求項 1 に記載された化合物を治療に有効な量で投与することを含む、創傷の治癒、外科手術からの回復、または衰弱症状からの回復を促進させる方法。